



学校教育目標「自ら学び 明るく 生きぬく子」

# 月越小学校だより

令和5年7月3日発行 7月号

夢や希望をはぐくみ

月越っ子のよさや

可能性を伸ばす学校

〒350-0825

川越市月吉町 51 番地

電話 049-222-2261

## 家庭と地域と学校で月越っ子の「やる気」を育てる

校長 遠藤 千絵

梅雨明け前の蒸し暑さが続いています。月越っ子は、毎日、学習や運動に元気に励んでいます。屋外の活動では、流れる大粒の汗が子供たちの笑顔とともにきらきら光っています。また、空調の効いた教室では、いよいよ一学期にまとめの学習に真剣に向き合い、課題に取り組む姿が見られます。6月中旬から水泳学習も始まりました。今年度は、コロナ禍だった昨年度よりもプールに入る時間を増やし、「水慣れ」から「泳力を伸ばす」学習へと段階に応じて進めてまいります。

さて、先月の学校公開日では、多数の保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。当日は各学年で様々な教科等を学ぶ様子、複数の教職員と関わる様子、本校自慢のオープンスペース環境の中で、子供たちが生活する様子などをご覧いただきました。どの授業でも保護者の前で子供たちが張り切る様子を見て、改めて家庭と学校との連携の大切さを感じました。

子供たちにとって、学校は一つの社会であり、時間割に示されている学習以外にも、家庭では体験できない人間関係づくりや集団生活での役割や責任を学んでいます。例えば、低学年では、自分の身の回りのことを自分でできるように、中学年では、自分や自分たちが困っていることを自分たちで解決できるように、さらに高学年では、自分の学校や地域をよりよくしていくための考えや行動を実現できるように学んでいきます。しかしながら、学校での学びは、子供たちにとって自分だけの楽しいことばかりではなく、続ける困難や新たな課題にも挑戦するため、緊張したり負担を感じたりすることもあります。このことを乗り越えて「わかること」「できること」を増していくために、家庭と学校で子供たちの気持ちを支えていくことが必要です。子供が「100%の本気」で一歩踏み出す時、あと少し頑張る気持ちが求められている時こそ、ご家庭での温かい支えで“やる気”を育ててください。

右の「10か条」から、家庭での支え方を考えてみると、

**第5条**：10のうち3うまくいったら、まず3の部分を確認してあげます。大事なのは、親が本気でほめることです。認められると次のやる気が生まれます。

**第8条**：失敗をいかに克服して、いかに心の糧にしていくかが大切です。失敗を責めるのではなく、その失敗を真正面から見つめさせ、今度は励まします。

**第10条**：やる気を育てるためには、家庭が明るく平和で伸び伸びしていることが大事です。

教職員にも折に触れて「子供のやる気を育てる」ことの話をしています。大人は、つい子供のできていない面に目が向き、注意や指導の言葉が多くなりがちです。学校・家庭・地域、それぞれの役割で私たち大人が子供のよさや可能性を認め、“やる気”を育てることを大事にしたいと思います。この“やる気”こそ、子供が主体的に学力や体力を向上させる原動力になります。

1学期も残すところ後3週間となりました。お子様の“やる気”が夏休み期間中の家庭生活につながるよう「10か条」を参考にしてみてもいいでしょうか。

### 親として子供のやる気を育てる10か条

- 第1条 自分のことは自分でさせる
- 第2条 めあてを与える、めあてをもたせる
- 第3条 やったことをまず認めてあげる
- 第4条 たまには困難を与える
- 第5条 上手にほめる
- 第6条 上手に叱る
- 第7条好きなことに熱中させる
- 第8条 失敗を許す
- 第9条 親の“やる気”はほどほどに
- 第10条 明るく温かい家庭づくり

埼玉県家庭教育振興協議会

『～子ども励まし10か条～やる気にさせる親の知恵』から

**校名「月越」に込められた願い** ①「月吉」という地名と「川越」から名付けられたことと併せて、②本校初代校長が1960年代のアポロ計画（月面着陸）が始まるよりも前に、『月を越えるほどの大きな夢をもとう』という壮大な願い込めて考えた案が採用された校名です。前号では、②の紹介が欠けていることを本校初代卒業生の方からご連絡いただきました。65周年の節目に創立当時の思いを直接伺うことができ、感謝いたします。

